

第9回総務文教常任委員会会議録

1 開会日時 平成25年10月22日（火）午後1時0分

2 閉会日時 平成25年10月22日（火）午後3時19分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

1 番 佐々木雄司君 2 番 光成 良充君 3 番 澤 健君

10 番 松田 勲君 11 番 北川 勝義君 16 番 下山 哲司君

5 説明のために出席した者

市 長	友實 武則君	副 市 長	内田 慶史君
教 育 長	永島 英夫君	総務部長兼 総合政策室長	池本 耕治君
財 務 部 長	石原 亨君	教 育 次 長	宮岡 秀樹君
赤 坂 支 所 長	森 章君	熊山支所長兼 赤磐市民病院事務長	山田 長俊君
吉 井 支 所 長	橋原 哲哉君	消 防 本 部 消 防 長	木庭 正宏君
秘書企画課長	近藤 常彦君	総 務 課 長	岡本 衛典君
くらし安全課長	水原 昌彦君	財 政 課 長	直原 平君
管 財 課 長	末本 勝則君	税 務 課 長	藤原 義昭君
収納対策課長	友谷 幸栄君	教育総務課長	奥田 智明君
学校教育課長	坪井 秀樹君	社会教育課長	正好 尚昭君
スポーツ振興 課 長	国定 信之君	消 防 本 部 消防総務課長	小竹森美宏君

6 事務局職員出席者

議会事務局長 富山 義昭君 主 任 大饗 剛君

7 協議事項 1) 事業の進捗状況について

2) その他

8 議事内容 別紙のとおり

午後1時0分 開会

○委員長（北川勝義君） ただいまから第9回総務文教常任委員会を開会いたします。

開会に先立ち、友實市長のほうから御挨拶をお願いします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、本日は第9回総務文教常任委員会を開催いただき、まことにありがとうございます。お忙しいにもかかわらず、ありがとうございます。

本日の委員会の協議事項なんですけれども、各部の事業の進捗状況について御報告をさせていただきます。そして、その他の項といたしまして、平成26年度の予算の編成方針について御報告をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、協議事項に入りたいと思います。

協議事項の1番目の事業進捗についてということで議題にします。

○総務部長兼総合政策室長（池本耕治君） 委員長、総務部長。

○委員長（北川勝義君） はい、池本部長。

○総務部長兼総合政策室長（池本耕治君） 1番の事業の進捗状況につきましては、資料の順番のとおり、総務部、それから教育委員会、それと消防本部、順番に担当者が説明をいたしますので、よろしくお願いたします。

それでは、総務部秘書企画課長。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 近藤課長。

ちょっと近藤君、ちょっと大きい声で言うてくれな。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい。

ことしの9月1日のバスダイヤ等の改正による利用者数の9月分の集計ができましたので、御報告させていただきます。

まず、宇野バスの減便により、代替バスであります広域路線バスにつきましては、改正点としましては第1便を仁堀発から新道穂崎発へ変更しました。平成25年9月の全体の乗車数が2,025人、それからことしの4月から8月の平均が1,980人で45人の増となっております。

その中でまた1便のみをしましたら、1便のみが、9月が281人、4月から8月が231人、平均です。50人の増。それから、第1便の新道穂崎から仁堀下までに乗られた方が一月で86人、約1日3名の方が利用されたこととなります。

それから、2番目に赤坂地域の市民バスでございますが、これは改正は町荻田下までの延伸と、それからダイヤの見直し、南佐古田停留所の追加をさせていただいております。

笹岡線につきましては、平成25年9月が44人、平成25年4月から8月の月平均が23人で、21人の増となっております。それから北佐古田線につきましては、9月が59人、4月から8月の月平均が8人、51人の増となっております。

それから、③で熊山市民バスでございますが、改正点は3便のダイヤ見直しで、ちょっと時間を早くした点でございます。

可真・桜が丘東線につきましては、9月が381人、4月から8月の平均470人、89人の減。小野田線につきましても340人、365人、25人の減。豊田・熊山線につきましても39人の減となっております。熊山については、とりあえず9月につきましては全て減でございます。

それから、吉井地域の市民バスにつきましては、改正点としましては乗降場所にJ A吉井支店を追加したところと、利用対象地域を仁堀東、仁堀中を拡大した点とダイヤの見直しでございます。

城南地域につきましては、25年9月が96人、うちJ Aまで行かれた方が5人、それから4月から8月の平均が85人で11人の増。それから、仁美地域につきましては65人、4月から8月の平均が68人でほとんど変わらず、マイナスの3人となっております。

以上、9月のちょっと実績の報告をさせていただきました。

以上です。

- 委員長（北川勝義君） はい、続いて。
- 学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。
- 委員長（北川勝義君） 坪井課長。
- 学校教育課長（坪井秀樹君） それでは……。
- 委員長（北川勝義君） ちょっと待つて。

ちょっと皆さん、どうでしょうか。1個ずついかせてもらおうか。全体説明で。1個ずつのほうが、全く教育委員会と変わるから。

執行部のほうに一括で説明いただこうと思うんですけど、議題が違ってきて、総務課から次は、今後は教育委員会のになるんで、1つつ片つけてやりたいと思います。

皆さん、そうさせていただきますよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（北川勝義君） それでは、ただいま秘書企画課のほうから説明が終わりました。

これについて質疑ありませんか、委員の皆さん。

はい、澤委員。

- 委員（澤 健君） 熊山地域の市民バスは人が減ってるわけですけど、これは総務部としてはどういう分析をされてるっていうか、なぜそうなってるのかとか、今後、全体のこの数としていい悪いっていうのもあると思うんですけど、どういう分析をされてるのか、もし、それをお聞かせいただければと思います。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 近藤課長。

○秘書企画課長（近藤常彦君） 今回の数値は9月一月分だけの集計でございますので、もう少し様子を見させてもらってから判断ちょっとさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○委員長（北川勝義君） 澤委員、よろしいか。

○委員（澤 健君） 結構です、はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） ちょっと中で1点だけ聞かせてください。

僕も今近藤課長が言われたようなことを思うて、4月から8月までの平均と9月の平均というたら全然違うんで、逆に月数が違うんで、9月と9月の平均じゃたらわからんことはねえんじゃけど、できたら、こういうことがあるんで、ぜひ来月9月が出てから、9月分ができたときに、去年の9月とことしの9月というのをちょっと一遍比較してもらいてえと思うんで、平均じゃのうて。平均はこれ4月から8月の平均で、9月と9月を出してもらいてえと。これは別に問題なかろう。できよう。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい。

○委員長（北川勝義君） それをしてから、そうしたら比べやすいと思うんが。

それで1点、今澤委員が言われた熊山地区の市民バスの減つとることなんじゃけど、ようわからん言うて、まだ1カ月じゃから言うたけど、何かコースが変わったりしていろいろ起こって、ダイヤの見直しがあったからというんで、どうこうという苦情というんじゃねえんだけど、何かそういう意見はねかったんですかな。それが1点と、仁美地域がこの3に減ったというんが、僕はふえとつてもええように思うんたじゃけど、何で3人かなと今ちょっと疑問に思うたん。ちょっとそれわかりゃあ教えてください。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、近藤課長。

○秘書企画課長（近藤常彦君） 熊山市民バスにつきましては、以前3便が変更してるんですけど、3便が市民病院にちょっと間に合いにくいということで御意見がございましたので改正させてもらっておりますけど、改正してからは苦情等はございません。今のところはありせん。

○委員長（北川勝義君） 意見は出てきてねえんじゃな。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい。

○委員長（北川勝義君） はいはい。

○秘書企画課長（近藤常彦君） それから、仁美地域の人数ですけど、9月が土日、日曜日と

か祭日が9月は1日入ると入らるので3人ぐらい違いが出てきますので、その違いだと認識しております。

○委員長（北川勝義君） ほな、それからもう一個。その9月のと9月のは来月に、11月に報告できるのかな。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 近藤課長。

○秘書企画課長（近藤常彦君） 9月分は去年の9月がデマンドでないんで、ちょっと……。

○委員長（北川勝義君） 比べれんのん。

○秘書企画課長（近藤常彦君） デマンドとの比較はできないと思いますんで、10月が間に合うようでしたら10月で比較でもよろしい……。

○委員長（北川勝義君） 10月でできたらできるわけじゃな。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい。

○委員長（北川勝義君） ほんなら、11月の委員会のときには報告もらえるというぐれえ。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい、そのようにします。

○委員長（北川勝義君） ほんなら、11月のときに、9月じゃのうて10月じゃな。10月を比べるのをお願いします。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 赤坂の市民バスなんですけど、8人いうのが目立って少ないんですけど、何か事情があったんですか、これは。

○秘書企画課長（近藤常彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 近藤課長。

○秘書企画課長（近藤常彦君） 私の考えるところでは、町苅田下まで、ハッピーマートまで延伸したことによって利用者がかなりふえたんだと思うんです。それまではやっぱり赤中前までしか行ってなかったんで、その延ばしたのがふえた原因と。それから、今回北佐古田線につきましては、南佐古田に停留所を設けました。南佐古田の乗車率が結構この中で半分ぐらいはウエートを占めてますので、南佐古田の乗車率が多かったということが59になって、今までは南佐古田の人が遠くて乗れなかったというのが原因だと思います。

○委員長（北川勝義君） これは近藤課長にちょっとあれ。途中おりたらおえなんじゃんや。ハッピーまで行かなおえんじゃんや。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい。

○委員長（北川勝義君） ハッピーマートまで行きやあ。

はい、下山さん。

○委員（下山哲司君） ほんだら、好転したというほうへとりゃあええんな、変更してから。

○秘書企画課長（近藤常彦君） はい、好転というか利用者数は増加したととっていただければ結構だと思います。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい、よろしいです。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで終わりたいと思います。

続きまして、学校教育課のほうから説明願いたいと思います。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、坪井課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） それでは、教育委員会のほうの資料のほうをごらんください。

赤磐市の子供たちの学力、学習の状況について説明をさせていただきます。

まず、資料の1ページをごらんください。

今回お示ししている資料は、平成25年度岡山県及び全国学力・学習状況調査の調査結果をもとに分析したものでございます。岡山県の調査は中学校の1年生を対象にしたもので、全国の調査は小学校の6年生と中学校3年生を対象とした調査でございます。

次に、2ページから5ページをごらんください。

これは、岡山県学力調査の結果の一部をグラフに示したものでございます。それぞれ国語、社会、数学、理科の教科において、現在の赤磐市の中学校1年生の特徴的なものをお示しをしております。

○委員長（北川勝義君） 中学1年。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい、中学校1年生です。

次に、6ページから8ページをごらんください。

今の中学校1年生の生活の状況について、特徴的なものをお示ししています。子供たちの成長がうかがわれるものもありますが、今後の課題として引き続き取り組んでいかなければならない課題も見えてまいりました。

次に、9ページから12ページをごらんください。

これは、昨年度は赤磐市のホームページには掲載はしておりませんでした。昨年度の全国調査は抽出調査でしたけれども、今年の調査は全国の全ての学校が参加した悉皆調査でしたので公表をしております。若干県の調査と調査内容に違いがあるため、グラフの表示形式は違っておりますけれども、現在の小学校の6年生と中学校3年生を対象とした全国学力調査の結果の

一部をグラフでお示しをしております。

また、13ページ、14ページでは、6年生と中学校3年生の生活状況の特徴的なものをお示しをしております。

今回の調査結果につきましては、あくまでも児童・生徒の学力や学習状況の一部であると認識していますけれども、現在赤磐市におきましては、15ページ、16ページにございます赤磐市学力向上アクションプランに基づいて、児童・生徒の学力の向上、よりよい生活習慣づくりに向けて取り組んでいるところでございます。特に平成25年度後半、これからでございますけれども、につきましては、17ページにあります3点を重点的に取り組んでまいります。

具体的には、17ページの中ほどにありますように、基礎的、基本的な内容については指導の徹底を図ります。教材提示装置や大型テレビなどのICT機器を使っての反復練習、県が作成した学習プリントを各校において有効に活用してまいります。また、現在3名の指導主事が各校を訪問した際に、ICT機器の活用状況や目当てとまとめのある授業の徹底を指導しているところでございます。

そして、各学校においては、今回の調査結果を受けて、学力や学習の実態を保護者や地域に学校通信などで説明し、学力、学習状況の改善に向けた各校別の取り組みを今開始しているところでございます。

以上、きょうお示ししているものについては、11月から赤磐市のホームページに掲載し、広く市民の方にお示しし、御理解と御協力をお願いしたいと考えております。

なお、17ページの下の方に各教科の言葉が書いてありますけれども、ホームページ上ではここをクリックすると国語科の問題が表示されるというホームページ上の形にもなっておりますので、御了解ください。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さん、何か御意見ありますか。質問ありましたら。

ホームページに載すと言うたのは、17ページのところを載すということ。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 本日御説明させていただきました1ページから17ページ全てを載せます。実際もう少し多いんですけども、紙面の都合上省略しているというところがございます。

○委員長（北川勝義君） ほんなら、17ページまで載るということで。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、わかりました。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、澤委員。

○委員（澤 健君） 全国の学力テストのほうで、小学校と中学校があって、中学校は、そういう見方がいいのかわかんないけど、一応県内で7番目ぐらいで、小学校のは非常に厳しいという状況が出ましたよね。これは何か教育委員会のほうではその部分について、なぜそうなってるんだらうかっていう分析っていうのはされたんでしょうか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 中学校3年生については、非常に成績が、学力テストの点数上を見ればよくなっております。このことについては、これまで小学校、中学校連携して小・中ブロックで学力向上に努めてきた取り組みの成果が最後の中学校3年のときに出ているのではないかというふうに分析しておりますけれども、小学校6年生の学力の低下の実態につきましては今後、今2学期を迎えていますけれども、それぞれ学校によっても特徴があります。基礎的な部分で力をつけてやらなければならない場合やら、表現力とか応用力とか、そういういった面を育成していかなければならない学校もあったり、各学校によって違いますので、現在各校のほうにお邪魔させていただきまして、学校の実態に応じて指導を進めていくように今行っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 澤委員。

○委員（澤 健君） はい、結構です。

○委員長（北川勝義君） ちょっとみんな聞く。ちょっと1つ思うんじゃけど、これ全国的なこっちゃから全国と比べてどうこういうんじゃねえんだけど、赤磐市がどうこういう話じゃない。市町村によったら美咲とか倉敷か、年3学期じゃねえ2学期にしたりしとるところもありますよね、いろいろやり方で。そういうようなところと比べてどんなんじゃろうか。それはよそじゃけえわからんのかな。わかってこんじゃろ。もしわかりゃあそれにどんなんかなと思つて。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 各他市町村の結果等については情報は持ってありません。

○委員長（北川勝義君） いやいや、僕が言いたかったのは、3学期にしとるが、大概のところは。それで、2学期のところもあるが、倉敷とか美咲とかというのは。その差がどんなんかなと思つて。そういうのはもうどこがどうこう比べえというんじゃねえけど、3学期のところよりは2学期のところはええかったとか悪かったとか、一長一短には言えれんのかあるんじゃねえかと思つます。そこらがわかりゃあと思つたん。それで、わからんなら結構ですけど、今ちょっとそう思つたんで。

もしそれで、一概には言えるこっちゃねえんじゃけど、トータル的に通って見よったら2学期のほうが優秀なかったとかというんじやったら、これから赤磐市も教育委員会全体で考えて2学期制にせにゃあおえんのんじゃねえかと思うて。いや、やっぱり3学期がいいんじやと、別に今のようにやっていくとかという方法論も考えにゃあおえんのんじゃねえかと思うて。口先で、学校見てああじゃこうじゃで、そりゃあおめえ、僕から言わしゃあ、うちの関係も学校しよんもおるけど。それは口で言うだけのことで、それに伴う行動を起こせなんだら何もできんのんじゃねえかと思って。

たまたま、まだ言い方を厳しいことを言やあ、土曜日が休みになっておりますわな、今。それで、その中のこって今全国的に土曜日も学校もするべきじゃあと言うたりする話も出たり、いろいろな賛否両論があると思うん。これ我々が決めるところじゃねえ、上のほうっていくんじやけど、放課後学習じゃねえけど、いろいろやっぺいきゃあ何らかの方法、同僚委員が言われたように何らかのことをやらなんだら、ただこれ見て悪かったんじや、えかったんじやと言ったところで、それだけじゃあ何の意味もねえ。学年によったら、ええ場合もあるし、悪い場合もあろうし。じゃから、僕はちょっと同僚委員が言われた、これ見てからどういうことをするんじや、調査したんじやからこの調査を見て、ことし初めてじゃったら別で、1年、2年かかってきたんじや、こういうことにやっぺいきてえんじやと。例えば、今言うたICT機器の活用するんじやとかテレビの大きいんでやるんじやとか、やっぱりいろいろなやり方を考えていかなんだら、見て聞くんですよと言うてみていいよったら、やってみた、これは済んだ、それで終わりじゃねえか。僕もかもしれん、議会のときだけ一生懸命やっぺ、議会の行かんときは寝とんじやあと言うんと同じことになるんじやねえかなとちょっと今思うたんで。何らかのもうちょい、厳しい言うんじやけど、あってもええんじやねえかなと、ちょっと市長、教育長、今そう思うたんですよ、その考え方が。

別に今から土曜日学級せえとか延長学級せえという話じゃねえんじやけど、何らかの前向きなことがなかったら、教育長も就任したとき挨拶されましたが、その言いよることのやっぺそれなかったら、別に学力上げるんが上とか下とかという話じゃ、比べるもんじゃねえ、学力が一番とか、ほな学力が悪いからええとかという、高歴じゃからええとか悪いとかという話じゃねえ。どれも持って生まれたもんじやから、それはやり方はあるんじやけど、学校教育していくんじやったらそういうことの何らかの前向きな気持ちを持たなんだら、調査したんですよだけで終わったら、何かちょっと教育委員会としてそういうなんを何か考えるところがあるんじやねえかなと思って。それであえて聞かせてもうたんですよ。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 御指摘にごもっともでございます。

最後のその他の項で説明することになるんですけども、こういったことを踏まえて、実は

26年度予算編成において、この教育について重点的な取り組みを強めていくということを考えておりますので、後ほどそのことについても御説明させていただきます。

○委員長（北川勝義君） 教育長も同じじゃな。

○教育長（永島英夫君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、わかりました。

他にありませんか。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（北川勝義君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 難しい問題だと思うんですけど、基礎、基本の徹底っていうことになってきたときに習熟度別の授業っていうか、そういうのが大切になってきて、どうしても放課後にやるということが必要になってくる面もあるんだけど、逆に言うと集団登下校という問題があって、私も町内会長してるときに、不審者がいるので気をつけてくださいということをして2度ぐらい、1年のうちに回覧したということもあって。ただ、全国で見ると、やっぱり放課後の取り組みっていうのが岡山県は少ないというのがございますよね。その中で、非常に難しいとは思いますが、そこの放課後の取り組みについては、教育委員会として何か方向、まだちょっと言えないということなんかもしれないけど、何かお考えがあればお聞かせいただきたいなと思ったんですけど。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 放課後等の取り組みにつきましては、現在笹岡小学校、仁美小学校等で行っているところはございます。それから、どうしても放課後にバス通学等で残すことのできない子供たちがいる場合につきましては、朝の学習の時間とか昼休みの時間とか、そういったあたり、掃除の時間を少し短くして工夫したりして、補充学習等を進めております。

なお、今御指摘のありましたこれからの放課後等の学習につきましては、どのように進めていくか、現在やっているところの成果を見たり、他市町村の状況を見たりして、次年度考えてまいりたいとは思っております。ただ、まだ現在のところは今の取り組みをしているところの様子の成果というのを見て、考えていこうと思っております。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（澤 健君） はい、結構です。

○委員長（北川勝義君） ちょっと要らんことを言うようなんじゃけど、今松田副委員長と話したんじゃけど、中学校は大体塾に行きよんが多いっていう話が出て、それはもうはっきり言うてここの桜が丘とか、要するにいわゆる山陽地域じゃな、旧山陽町ぐれえじゃと思うん

じゃあ、熊山とか。吉井やこう塾行くと、塾はねえわけじゃ、送り迎えしよって、実際のことを言うて。ただ、こういうことを言ったら、同じ市にあって、西高東低じゃねえ、北のほうが高くなってしもうて、やっぱり差がついてくるようなことが起きやすくなると思うんです、これは。言い方悪いんじゃないけど。やっぱり1人でも車へ積んでいくというのは、なかなかそこまで情熱持っていく、生活の追われとる方もおるし、もちろんこういった言い方は悪いけど、低所得者の方もおられたら塾へ行かす金は不可能な言うんがあるんで。

それで、今同僚委員が言われた話じゃねえんじゃないけど、バスの時間が云々ということやったらバスの時間も、これから最後にその話出てこられるかもしれんんじゃないけど、その他で出るかもしれんけど、変えるとか時間変更をちょっとするとか、毎週じゃのうて1回だけするというのをして、ちょっと放課後というの、やっぱりこれからのことを考えるんじゃないとらバスを1便ふやすのでも、極端な話ですよ、予算かかろうけど。その分だけしたら授業が残れる、塾行かんでもできるというのをちょっとお願いしてえなというのを僕は思うたんよ。そういう気持ちのうて、バスがねえから行けんんじゃないとか、あれがねえけんって言いよんじゃないとら、もう初めからせんと言うのと同じで、予算が伴うこっちゃろうけど、やっぱりそういうことはちょっと考えるべきじゃねえ。

僕は、こういうことを言ったらあれだけ、図書館をつくったときに、前も言った図書館の中で、吉井中学校の前へつくったんです、図書館を。ただ、中学校の子じゃあとか小学校の子が宿題をして帰ってもらおうと、全体でというのが目的じゃったんですよ。結果、今そういうことになって、少ねえんじゃないけど。

それからもう一つ、これは名前や言えというたら言いますけど1人、下山同僚委員もよう知っとられるけど、吉井町の役場の職員のどっちも奥さんは和気町じゃけど吉永でこっちという職員がおったんですわ。職員が決して、別に頭悪いとかという話しよんじゃないとら。子供にテレビを全然見ささずに、娘さん2人をずっとして、どっちも大学受けて薬剤師と医者になったんです。新聞は見てもええと、テレビは見ささん、時間も全然見ささんで、これは育ったんも、それも教育物すげえ難しゅう、でえれえ力入れ過ぎたん。わかろう、誰と話したんが。そのときやったんです。それも一つの方法じゃから。

これ見よつたら、テレビのことが調査で回答、テレビ見る時間が、コンピューターゲームか何か多いんで、どうもこれを何か、後から出てくるかもな、赤磐の学校教育のほうなんで、教育課のほうでテレビ、家まで制約できんけど、その時間帯を何かするという、守ろうじゃねえけど、そういう何か一つ、教育長、市長に言うんかわからんんじゃないけど、家でテレビ見る時間を何とかしようということのを学校とかやっぱり考えるべきじゃねえんかな。これ家庭教育になっちゃうんかもしれんんじゃないけど、それをしたけん、テレビ見ささんだけけん、物すげえようになったとは限らんんじゃないけど、みんなそういうかわりに新聞は読んでもええということ。新聞読みよつたり、覚えたんもあるんで。

僕らも恥ずかしい話が、いろいろな本を買って読みよっても、本でも車のほうで読みよったら、読めれんような字が出とんです。前後読むんで、そしたら辞書引いてみてからやっと読めるといふんかな、そういう意味のこともあるんで、勉強になると思うんで、活字はなると思うんで、活字がええとかそういうなんじゃけど、ちょっとテレビの時間があるけん、何かそんな対応というのは、今まで毎年こういうようなテレビは出とるでしょう。そういうことを言うたら、考えなんだんかな。どんなんですかね、これについては。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） テレビのことにつきましては、この調査結果のほうを見ていただいてもわかりますように、全国と比べて非常にテレビを見る時間が長くなっている子が多い状況でございます。全市的な取り組みということではないんですけども、それぞれ各PTAごとにノーテレビデーの日、ノーゲームデーの日を取り入れて、1週間まとめて今週はっていうふうな形で取り組んでくださっているというところの実態はございます。全市としてという取り組みはございません。

以上です。

○委員長（北川勝義君） はい、わかりました。

○副委員長（松田 勲君） いいですか。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○副委員長（松田 勲君） 皆さん言われることで大体一緒なんですけど、大体分析されたのを見てみますと、やはり読解力が一番ないんじゃないかなと、欠けてるんじゃないかなと。9ページを見ても、小学校の国語も全国の平均よりもかなり下がっている傾向にあると思うんです。そういった中で、下にある程度の長さの文を読む力についても課題があると書いてますが、そのとおりじゃないかなと。算数にしてもほかの授業にしてもそうだと思うんですけど、やはり読解力がないとなかなか厳しいんじゃないかなと。

10ページには、基礎的な問題での正答率が低く、答えを書いてない無回答が比較的多いというふうに書いてますよね。やはり読解力も含めて、読解力がないからやる気もなかなか出てこないんじゃないかなと思うんです。先ほど委員長言われたように、この前の新聞の採択もありましたけど、今ごろの若い方は新聞離れしてるんです。私が中学生のときには、天声人語とか名木の言とか、国語の先生が毎日切り抜きして、毎日感想を書いて提出するのが宿題だったんです。本はなかなか読まなかったんですけど、それだけは3年間やってきたというのがあるんですけど、それを短い文章で読むことによって漢字もわかるし、読解力も出てくると思うんですけど、そういったことがだんだん欠けてきてるんじゃないかなと。

だから、今の例えば社会人に面接で、僕も最近してるんですけど、したら社会のことがわかってないんです。基礎的な学校の授業のことはわかってても、社会的なことが全くわかってな

い。あれだけニュースでやってるのに、情報もたくさんあるんだけど、受け入れてない状況だと思うんです。大きな事件があったとかというのはまた別としてですね。だから、そういった意味でやはり新聞離れしてる。

今は、さっき長い文章はだめだということで、短い文章はオーケーなんですよね。LINEでかなり中学生もやってます。小学生も今LINEがはやってます。短い文章で来て、短い文章で返すっていうのは得意なんです。でも、長い文章になるともうやる気がなくなるのが今の傾向じゃないかなと思います。

これは、やはり学校だけじゃなくて、さっきも委員長が言われましたけど、家庭教育が一番大事なんじゃないかなと。家庭教育においては、しっかりPTAとも現実を、せつかくこれホームページで出されるのもいいんですけど、学校でPTAとしっかりと連携をとって実態をつかんで、もっともっとお願いすることと。

学校においては、先ほど言われてた、市長も予算組まれると思うんですが、ICTの関係もしっかり充実していかないと、今県外でも結構それを導入して、小学生は大きな画面を見て、電子黒板とか見て、そういったものを反応してるっていうのが事例が出ておりますし、やっぱりそういったこともやっていかなくちゃいけないんじゃないかなと思うんですけど、その辺どんなんでしょうか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 御指摘にもありました読解力の低下につきましては、個々の学力テストにも如実にあらわれております。国語科等においては、通常の教科書の授業、その後発展的に、今御指摘のありました新聞等を使ったり、新聞を読んだり、それからその他の本を読んだりする、そういった教科書で終わるのではなく発展的な課題のほうにも取り組んでいくように指導はしているところでございます。

それと同時に、家庭との連携ということで、例えば親子読書とかPTA読書とか、そういった読書のほうにも積極的に家庭と連携して進めていくように、そういったところの指導はしておりますけれども、今後も各学校に出向きましてそういったあたりに、御指摘のありました点については、各校の教育課題に応じて指導をしてまいりたいと思います。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○副委員長（松田 勲君） はい、ありがとうございます。

それと、この前ちょっとある中学校を見させていただいたんですけど、授業を。やっぱり先生にもよると思うんです、学校においては、正直。先生の、教えることは一緒なんですけど、教え方がやっぱりいろいろあるんで。一生懸命見てるクラスもあれば、何人か寝てるクラスもありました。やはり興味を引くように、学校においては先生の努力も必要じゃないかなと。そういった意味では、いろいろ先生同士で見学されるのもいいんじゃないかなと。そうい

ったことで、いいところをしっかりと学んでやっていただきたいなど。

あと、先ほどの塾の話もありましたけど、正直本当に中学校になったらほとんど塾に行かれてる方が多いんで、僕はそれで上がってるのも多いんと思うんです。でも、小学校の場合、余りそんなには行かれてないと思う。スポ少とかいろんなことはされてますけど、そんなには行ってないと思う。やっぱり中学校になって行く方が多いと思うんです。中学校で授業終わって、さっき放課後教室とかありましたけど、先生が独自に教えてるところもあるんです。終わった後にちょっと希望者を募ってやってるところもあるんです。そういったことも必要ではないかなと。小学校では集団登下校をするからなかなか難しいと思うんですけど、例えばそういった放課後教室みたいな形でそういったことをやっていくのも大事じゃないんじゃないかなと思うんで、そういった……。

○委員長（北川勝義君） 癖をつけにやあおえん。

○副委員長（松田 勲君） 癖をつけないと、帰ったらなかなかしないと思うんです。それで、学校において少しそういう時間を設けてやる努力も必要じゃないかな。先生も忙しいとは思いますが、そういったことも必要だと思うんですけど、どんなんでしょうか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 御指摘のありました取り組みにつきましては、今もう既に実施している中学校等もございます。そういった中学校の様子を聞きながら、今後各中学校のほうにも働きかけてまいりたいと思います。

○副委員長（松田 勲君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○副委員長（松田 勲君） ありがとうございます。

最後なんですけど、前も質疑でも言ったことあるんですけど、福井県とか結構、秋田とか、あっちのほうで全国的にレベルが高いところがありますよね。この前はどっかの県、忘れたんですけど、前に市長にも話ししましたが、県の優秀な先生を集めて、その先生がいろんな学校に訪問して回って刺激を与えながら、全体的によくなってきたという事例もあるわけです。そういったことも、やっぱりそういったところに我々も含めて見に行って、何がいいのかどうなのかというのにも必要じゃないかなと思うんですけど、その辺市長、どんなんでしょうか。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 他都市、他の地域で成果が上がってるのを研究していくってことは非常に大事だと思ってますんで、これからそういった事例を研究するというのもしっかりとやらせていただきたいと思います。いいものについては赤磐に取り入れるという思いでやっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） はい、よろしい。

ちょっと思いつきで言うんじゃないけど、思いつきで言うんですよ、学校教育課ということ。今ごろ手で書くとかどうこう言うんじゃないねえ、タブレットとかというて使うて、教材使うて勉強するというんがありますわね、学校によっては。それを何ぼか入れりゃあ、子供は小学校、中学校の子はもう僕らより携帯の使い方よう知っとるでしょう。テレビゲームでももうほんまわからんことをどねえ、機種が違ってもちゃちゃちゃっとう入れてくれるぐれえな能力、中学校やこう、特に小学校6年とか高学年は持っとなで、タブレットとか使うようなことも覚えてやったら興味がわくから、ちょっとお金かかるこっちゃけど、授業もどっかやってみりゃあええと思うんだけど。見たら、それは使いてえから覚えるというのもやっぱりあると思うんです。それで勉強していくというのも一つの持っていき方というんかな。勉強嫌いになって、好きじゃねえけど、もう意欲わかんのをやれえやれえと言うてたたきつけても、苦痛になるようなことになると思うんで。

昔やりよったときに、今の桜が丘中学の西山先生は校長やこうでも、それは報酬もらいよったんじゃないけど、文化会館とか学習来てから2時間とか勉強教えよったんですよ、教えてやると。やっぱり勉強が上がるだけじゃねえ、勉強するという習慣というんかな、癖というか、意欲持ちよったんもあるんで、それで頭がよくなったとか悪なったとか、そういう話じゃねえんですけど、やっぱりあるんで。やっぱりみんなでまとまったらできるけど、例えばの話が、こんなこと言ったらおかしいですけど、1人で御飯食べたらいしゅうねえけど、子供は特に飯ごう炊さんでもしたら1杯も食べんという子が2杯食べたりするようなんと同じで、やる気になってくるんで、そういうことを何かで持っていくようにして、我々も、議会の話ししたらおかしいんじゃないけど、議会でもタブレットぐれえは使えるようにしたら覚えていったり、ほかの削減もできる。政務調査費でもええんじゃないけど認めていくとか、例えば。それは議会の話じゃけど。

それから、今先ほど同僚委員も言ったような、先進したところがありゃあ、執行部もじゃけど、この総務文教委員会やこうで視察に行つて見させてもろうて、こういうことはやるべきじゃと、取り入れていくべきじゃというのを僕はすべきじゃと思う。そのために予算も組んでもらやええ。そういうことにお金を使うのはええと思うんです。僕はよ、言いよんのは。今どっか優秀なというて、別に日本一になった学校を見てこうとか言いよんの、これからなつていきよるやり方ですかね、意欲持ってよう、僕らが小めえときは岡山県は教育県じゃあという話はずっと上で大きゅう、松田さんがよう言われるようになったんじゃないけど、何か教育県より、これを見よりゃあ、比べ方も違うんじゃないろうけど、どうも情けない。これ何で、市長や教育長にこういうことを答えを求めちゃいけん。何でこういうことになったんじゃないろうかな。タブレットのこともじゃけど、教育県が下がってきたんは何でじゃろうかな。知事の考えじゃろうか。三木知事で言やあ、どんなんじゃろうか。答えてくれとは別にいいや。ちょっとさっきのわか

れば、タブレットのことで視察のこと、ちょっと答えて。

○学校教育課長（坪井秀樹君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） タブレット等につきましては、今後学校のほうにおいてコンピューター機器等の入れかえ等がございますので、それに向けてモデル校的なところにおいて少しずつ取り入れて、その成果のほうを見て本格的な導入については検討してまいりたいと思っております。

○委員長（北川勝義君） 視察はええな。

○副委員長（松田 勲君） はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 他になければ、これでこの議題を終わりたいと思います。

続きまして、消防関係のほうをお願いします。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 小竹森課長。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） それでは、消防救急デジタル無線システム建設工事の進捗状況について御説明申し上げます。

資料の1ページをごらんください。

工事概要につきましては、デジタル無線システム用の無線中継局舎及び無線鉄塔の建設工事並びにデジタル無線設備及び機器の整備工事一式となります。

請負者は、岡山市北区駅元町31番2号、協和テクノロジーズ株式会社、岡山事業所長中山勝美です。

契約方法は一般競争入札による契約で、契約金額は6億3,531万7,200円です。

契約日は平成25年2月28日で、工期は平成25年2月28日から平成26年3月31日となっております。

工事の進捗状況につきましては、資料2ページの工事出来高報告書のほうをごらんください。

下のほうに工事出来高報告書というのがありますが、9月30日現在で72.8%で予定どおりの進捗率となっております。現在の工事状況ですが、機器の製造が終了しまして、順次通信指令室、中継局、車両への機器の据えつけ、設置等を行っているところです。

3ページ目以降は、写真等の資料を添付しております。

3ページ、4ページが、戸津野中継局、倉掛山中継局の案内図及び平面図になります。

5ページ、6ページが、それぞれの現在の写真となっております。

最後の7ページですが、各中継局と消防本部の位置関係図になります。

説明は以上です。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

25年度の主要事業の進捗ということで、消防救急デジタル無線システムの建設工事について何か質疑ありませんか。

これちょっと言った、1社入札じゃったんかな。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） そうです。

○委員長（北川勝義君） 1社入札じゃったんじゃないな。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） はい。

○委員長（北川勝義君） それで、これちょっと出来高が出せえて、工程表で出せえと言うとんじゃないけど、出来高払いするんじゃないねえんじゃないろう。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） 違います。

○委員長（北川勝義君） いや、何、どねえするん。前渡金も、ならどういふ払い方すん。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） 失礼しました。

前払い金を出しております。あとはでき上がったときの支払い……。

○委員長（北川勝義君） じゃあ、精算払いじゃな。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） はい。

○委員長（北川勝義君） 前払いだけじゃな。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） はい。

○委員長（北川勝義君） 何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで消防救急デジタル無線のシステムの建設工事の進捗状況を終わりたいと思います。

ここで55分まで休憩とします。

午後1時46分 休憩

午後1時55分 再開

○委員長（北川勝義君） それでは、再開します。

次に、協議事項のその他に入りたいと思います。

その他でありましたら。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） はい、失礼します。

ちょっと1件、お話を聞いていただきたいということで、委員長にお願いをしたんですけど、入札のあれを見よったんですけど、舗装の入札が9件出とんどす、今。その内容を見たら、3件が市外業者を呼び込むような形の入札の方法で、あとの6件は市内業者、こういうこ

とになっとなんですが、その市内業者においても施工実績に関する条件というのがついておりまして、請負金額が1件1,000万円以上の舗装工事を15年以降にということで条件がついとなんですが、新しくできた会社とか、長年やっとなられても今度新たに舗装をやり出したとかという会社は、そういう条件に当てはまるような施工実績というものはないんです。そうすれば、いつまでたっても条件にはまって入札に応札ができるという状況ではねえわけ。地場産業の育成ということを掲げられとる以上は、やっぱりその辺の条件を考えて、地元の赤磐市内の業者が応札ができるような状態にするのが市長の入札のやり方、それから地場産業の育成の考え方から、そういう条件をどういうふうに緩和するかというのが仕事だと思うんですが、この9件を見せていただいた以上は、そういうふうに考え方がうかがえないんです。

それから、3件大きい工事が出となんですが、その3件も上市、正崎、桜が丘西と、こういうふうな地内となっとなんですが、延長が1,130メートル、970とこういう、2件を1つにして大きな工事にしてあるんです。それで、条件として、岡山県内に主たる営業所を構えているというのが条件で、それもこれが1件2,000万円、2,100万円、1,700万円の工事の実績がある、こういうことになれば赤磐市内に、インターネットで引っ張ってみれば、舗装業者が15社あるんですね。その中に、A社が4社、B社が11社で、この条件からいきますと、ちょっと調べてみたんですが、Aの4社のうちでもこの条件に当てはまるのは2社しかないというような状況なんです。そういう状況の中で入札をやれば……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと見せてくれるかな。

○委員（下山哲司君） これ。

○委員長（北川勝義君） うん。

○委員（下山哲司君） 赤磐市内の業者は、いつまでたっても一人前の業者に、看板だけは上げとるけどできないと。赤磐市内で地場産業育成というんでしたら、こういう事業を国の事業が出たときに地元の業者がとって、そういう実績がついたり、施工能力がついたり、するようになるのが今の地場産業育成という市長唱えられとる条件だと私思うんです。これをやらん限りは、いつまでたっても地場産業は入札に応札することができないんですね。これを見たら、何か都合があって市外の業者に応札させにゃあいけんようなようにやっとなじゃねえかというふうに私は見て思うんですよ。

特に、この今の3件、大きい金額、5,800万円とか5,700万円、4,600万円というような発注方法になっとなんですが、どれも2カ所を1つにして金額を大きくしてある。それから、1件については4地区の地域を1つにして大きな金額にしてある。何でこういうことにするのか腑に落ちないというのは、この3件もそうですし、それからこれから舗装をやっていくとする会社が、実績はおろか、これから勉強にもならん。そういう状況の入札の仕方にしか思えないんです。それをちょっと市長に、ここでただしてお聞きしたい。委員長もこの前も言われたように、地場産業の育成というのが大事じゃということで、お聞きしたいと思うんですが。

○副市長（内田慶史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、内田副市長。

○副市長（内田慶史君） 入札の関係、御指摘のとおりでございます。

今後につきましては、地場産業の育成に特に視点を置きまして、先ほども御指摘がございましたように、施工実績等々の条件を緩和いたしまして、市内業者が入札に優先して参加できますように制度の見直しをしてみたいと思いますので、今後見直しをしてみたいと思いますので、よろしくお願いたしたいと思っております。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） これからというんじゃないしに、国が地域活性化事業で資金を回してくれとるわけですから。補正で6億円も組んであったような工事が、何で地域がこんだけ広いところにあって、そういう縛りをして特定の業者しかとれないような方法にするというのは、もう執行部の怠慢だと思うんです。私は、誰とか言っとんじゃないんです。赤磐市内の業者の皆さんの人が、15社もある会社が、これから従業員を雇ってやっていかにゃあいいけん人が、これじゃあ絶対やっていけませんよ。半分以上の金額が市外に持っていくようになる、この内容だけ見れば。それで、6億円ですから、まだあとも残っとるんでしょう。

この前も幼稚園の入札が、僕が総務委員会でお尋ねしたように、何か手違いがあって、公募しとったんですけど取り消して、またやり直した。これもやり直したらいいんじゃないですか。もう少し市民のことを思うて、市長の応援して下さった業者の方もおられるでしょう、何人も。そういうことを考えて、やっぱしせにゃあいいけんと思うんです。その辺をちょっと回答を市長のほうからいただきたい。

○委員長（北川勝義君） 下山さんちょっとええかな、ついでに。

別に下山委員の味方しようとかすまあとかじゃねえ、前にも井上市長のときもこういう入札の仕方もしよりました。やっとなつたでしょう。

○委員（下山哲司君） 最初……。

○委員長（北川勝義君） やっとなつた。やっとなつたっちゃ。やっとなつたんもあるし、それから井上市長のときはこういうやり方やって、僕も反対しとったんにやられよつた。それやってきとつたんもあつて、今友實市長になったからやっとなつて、下山さんはそのときは反対せなんだけん、今また考え方が僕と似たようなことに、いつも合わんのじゃけどな、全く。似たようなことになつたんじゃないけど。

今言いよる、これの緊急予算がついたときに、同僚議員の丸山議員というのは借金をしていると言うてむちゃばあ質疑をしたけど、僕はそうじゃのうて、議事録を起こしてもらえれば僕の発言したこつちやから。こういう事業ができてくるんならこれは前向きにできるんで、地域の活性化のために地域の育成してかにはゃあえんけえ、よくやってくれえというのを言うたら、

市長はそのとき、本会議じゃあやりますと言った。これやっくらへんがな。

わし、今まで井上市長のときでこうやりよったけど変わってくれたと思うて、僕は下山委員とは全然考え方は違うけど、このことだけはちょびっと似とるようなことがあって、昔ほ場整備とか下水道事業、僕は悪う言われたんじゃけど、ほ場整備するときはどっこも入れたんですよ。そうせにゃあ、いつまでたってもほ場整備、吉井町で初めてやったときは、ほ場整備はねえときはいつまでたっても入れんですが。下水道事業のときも大手ばあ入れて、入れなんだときは入れなんだら、いつまでも下水をしたことがねえ、経験年数がねえからと言うてやられたんですよ。

例えば、名前は言いませんけど、SとかNとかという業者いけん、Aとかという業者いけんというてやられたんです。そのときはちょうど僕は職員じゃったから、そのときにやったときにそれは間違う、そういうふうなことを言ったらいつまでたっても経験年数できまあがなという話しして、その当時の人が、Mという課長じゃったんじゃけど、町長もMという人じゃったんじゃけど変えて、結果的には全部幹部会にそういうやり方はおかしいと言うてやった。この中の赤磐の幹部職員もそういうことを、指名委員会とか、こういうようなことを言う者もおらにゃおえんじゃねえんかな。みんなどうせひな壇へ上がったとんじゃねえんか、一般質問のときとか質疑のときに。上がったでしょう、たしか。それ僕が質疑したんじゃあ、それはもうはっきり言って。

僕は、じゃったらこりゃあしてもらわにゃあ何ぼか、井上さんでやりよったときもいろいろ言う、今後市長も変わられたんじゃからせまあ、僕はあえてこれ言うたら一般競争入札の条件つきじゃあから、これ極端な話は1社になってやることになるんでえ。同じようなこと、きょうの消防のデジタル無線のじゃとか、今回のひかり保育所じゃったかな、幼稚園じゃったかな。ひかりじゃったな、1社入札じゃったわな。そういうことが起きるんで、これからも。あえて起こすんかな。

それは井上さんがやりよったときがええとか悪いとか言うんじゃねえ、井上さんもやっとな、これ事実な話。じゃけど、できるんじゃったら、これ市道の桜が丘北幹線と桜が丘西補助幹線の一緒に、おめえこれは誰が考えても、東と西と考えると同じ道の1本のところをやるんじゃったらあれじゃけど、どうも分けれるんじゃねえんかな、こんなことは。5,800万円も予定価格を出してやるべきかなと思うて。これはもうちょっと、産業委員会やこうはよそのところに上げるし、これは入札はうちやけど、ちょっともう実際のことでこういうことをやるということ自体が怠慢じゃと思う。住宅の悪かったところへ悪いことしとるのに何もやらずに。

こういうことは僕も聞かせてもらいてえん、下山委員で同僚委員じゃねえけど、ほかの。井上さんがしとることよりまだ悪いことをしてる。悪いことがあつたら直しゃあよろしいがな。小泉純一郎さんやこう原発大賛成じゃ言いよったけど、原発反対じゃあというて言りますが、自分で。直す勇気も必要なんが。それ全部直せとかというんじゃねえけど、僕はこら

じゃとか、次の上市やこうのところでもおかしいと思うし、それからもう一個の4,600万円のこれは……。

○委員（下山哲司君） これはもう区域が違う。

○委員長（北川勝義君） これも区域が違うの、ほんま釜底と菊ヶ峠の1線でいうた、何でこねえなことをやるんじゃろうかと思う。何かやりやすいよ。僕は土木もしよったんじゃけど、職員のとときは。こねえなことをしたことはねえんで、一緒にせんからな。災害やっこじやって赤坂じゃったら森支所長がおるけど、A箇所、B箇所というてやりよったわな、赤坂やこう。うちはしたことはねえ、分けてしよったわな。やっぱりそれはちょっとやり方が井上さんのとき悪かったんじゃけど、市長はそこまで目が通しよんじゃねえ、部長言うてくれえ、しゃんしゃんしてやってもらわにゃあ。副市長、これはやってもらわなんだ。これがええ、ええというて。10月の、言い方悪いけど4日に出して、これはいつでえ、入札日は。

○委員（下山哲司君） いや、まだまだ先。

○委員長（北川勝義君） いつでえ、こりゃあ、入札日。ちょっとそれ。いつ、こりゃあ。

○委員（下山哲司君） 11月じゃあ。

○管財課長（末本勝則君） 11月13日。

○委員長（北川勝義君） 11月13日。そりゃあおめえ、何かおめえ、どないか考えてくれにゃあ、これなもんどんどんどんどん出されたら……。

○副委員長（松田 勲君） こういうふうに出しとるから、もう出せんよ。

○委員長（北川勝義君） いや、それはできるんじゃけどな。

○委員（下山哲司君） それはこの前ひかりでも出しとってということ……。

○委員長（北川勝義君） 取り下げたんや。

○委員（下山哲司君） あれは抗議したんじゃから。

○委員長（北川勝義君） ちょっと。

それで、何か一般競争入札の条件つきというんでやっとして、1社入札をするということは、僕は絶えず言いよんのは、例えば1億円の事業じゃって1社入札で95%でと98%でおって、9,800万円でおったらええというて、あとは来んからというのは、そりゃあおかしいんじゃねえかと。やっぱり競争してもうて、そしたら国庫補助じゃけんというけど、補助裏もあつたり、違うんじゃねえ、Lも延びるし。やっぱり考え方をええにゃあおえんじやと思う。どんなんでしょうかな。副市長、市長、答えてくれりゃあええんじやけど。

すぐ僕ら、やめえとか執行権の介入しよんじゃねえ。下山さん、やめえとは。下山さんは僕からちょっと何か言うたら執行権の介入じゃといつも言うて、介入してねえことも言う、これは言うたら介入になるかもしれんけど、僕はやっぱりあえて、いや介入しよんじゃねえんじやけど、これはちょっと考え方、ここをやったからこらえてくれえと言うたら次が、もうほんなら極端な話したら、僕は逆だと言うよ、次もせえと言うて。ほんだら、でもやっぱりそれは

ちょっとここで考えてもらいてえの。

○委員（下山哲司君） よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

ちょっと途中じゃ。

○委員（下山哲司君） これが1億5,000万円では……。

○委員長（北川勝義君） 前例になってしまう。

○委員（下山哲司君） 議決が要るようなやつだったら議会がかかわってできるんですよ。じゃけど、これは市長の権限だけでできる範囲の事業なんじゃから、市長に責任があるんです。じゃから、私は部長や課長に言うつもりは一つもありません。責任者は市長なんじゃから、市長がこれで正しいんか正しくないんか、これを判断してやってもらいたんです。言いよることとしよることが違うということですから。それで正しいと言うんなら、私も議員としてもまたいろんな考え方があります。こういうこととやるということはもう絶対間違いですよ。

○委員長（北川勝義君） ちょっと下山さん、いい。ちょっと待っていて。

ちょっとさっき言うた221号というのがあるでしょう、公告の。僕はちょっと桜が丘のことはようわからんで、桜が丘が3人おられるけん。言ったら、北幹線があるでしょう。ちょっと桜が丘北幹線と西補助幹線17号、ちょっと場所がどこら辺かちょちょっとこう言うてくれりゃあ、執行部の。

○委員（下山哲司君） たとえどうであれ……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと。

ちょっと聞きたい。僕はこういうなつとる道じゃったらもうある程度仕方ねえかもしれんじゃけど、幹線じゃけど全然違うけん。僕はこういう道とこういう道じゃねえとか思うんじゃあ。ただ、全然切れると思うんじゃあ。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしいですか。

美作市がええとか悪いとか言うんじゃないですけど、美作市は1本の長いやつやっても分けて……。

○委員長（北川勝義君） それ言うなっちゃ、おめえ。それ言ったらおえるか。

○委員（下山哲司君） うん。

やっておりますけど、それは……。

○副委員長（松田 勲君） ちょっと場所がわからんから。

○委員長（北川勝義君） 場所わかる。

暫時休憩します。

午後2時10分 休憩

午後2時47分 再開

○委員長（北川勝義君） それでは、再開します。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 御指摘のありました4件の工事、これについて地元業者の受注機会をふやすという御指摘がございましたが、私の政治的判断のもと、これを……。

○財務部長（石原 亨君） 市長、3件ですから。

○市長（友實武則君） わかってるわかってる。

これについて……。

○委員（下山哲司君） 4件。

○委員長（北川勝義君） ええって、おめえ。ちょっと黙っとけ、おめえら。

○市長（友實武則君） よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） どうぞ。

○市長（友實武則君） それについて判断をいたしました。

御指摘いただいている工事は4件ございます。そのうち、工事番号で申しますと、下二桁の工事番号が69番、70番、71番、この3件につきましては……。

○委員長（北川勝義君） どけえあるん、それは。どけえあるん。69番、これ。失礼。

○市長（友實武則君） よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○市長（友實武則君） この3件につきましては、このまま発注いたしますと、Aクラスの業者しか指名の入札参加資格がございません。この3件につきましては取り下げまして、分割の上、地元企業に受注の機会をふやすということで対応をしてみたいと思います。さらに、この3件のうち、分割した結果、この工区が同一業者が受注した場合には、近接工事としての事務をとり行いますので、これが条件になろうかと思しますので、その点も含めて御理解いただければと思います。

いろいろ御迷惑をおかけしましたが、以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 経費は下げるというこっちゃな。

○市長（友實武則君） 同一業者なら。

○委員長（北川勝義君） 同一業者の場合、経費下げる。それは当然だから。

下山さん、よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 初めてええ決断をしていただいて、ありがとうございます。

もう一件というてお尋ねするんですけど、そのもう一件は75の分がこれにも条件が1,000万円というのがついとるんですよ。

○委員長（北川勝義君） 75。

○委員（下山哲司君）　そうです。施工実績条件のところなんですけど、1,000万円というのがこれだけついとんですよ。これはほかの見てたら金額がちょっと多いからつけとんだらうと思うんですけど……。

○委員長（北川勝義君）　75じゃろう。

○委員（下山哲司君）　75。

○委員長（北川勝義君）　75じゃろう。

○委員（下山哲司君）　はい。そういうところも条件緩和ができる範囲でお願いをしていただけたら、地元業者が今後他市に向いても県に向いても条件が整うようなことに市内業者がなるんじゃないかと思うんで、その辺を御理解をいただきまして、そっから先は言いません。よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君）　ちょっと確認するんじゃないけど、75号の分はこの図面にゃなかろう。なかろう、図面には。

○副委員長（松田　勲君）　これは違うん。

○委員長（北川勝義君）　菊ヶ峠のあったんと3つだけやろな。

○委員（下山哲司君）　これは施工実績条件のこと……。

○委員長（北川勝義君）　いやいや、わかるんじゃないけど。

○管財課長（末本勝則君）　図面はございません。

○委員長（北川勝義君）　図面はねえな。

○管財課長（末本勝則君）　はい、ありません。

○委員長（北川勝義君）　これは菊ヶ峠じゃなあ、1枚のは。菊ヶ峠釜底線じゃなあ。

○管財課長（末本勝則君）　そうです、はい。

○委員長（北川勝義君）　それから、ちょっと参考に聞くけど、この一番上にある、この分はどっちの分。北幹線、桜が丘。

○管財課長（末本勝則君）　桜が丘のほうへ2本入っとんのが桜が丘北幹線のほうです。

○委員長（北川勝義君）　それで、1本のほうへ……。

○管財課長（末本勝則君）　上市二井は斜めに1本入っとんのと横に1本入っとんのが2枚になると思うんですけど。

○委員長（北川勝義君）　上市じゃな。

○管財課長（末本勝則君）　はい、そうです。それが上市です。

○委員長（北川勝義君）　69、70なんや。

それで、下山さん、よろしいな、ほんなら。

ほんなら市長、大変申しわけねえんですけど、このことについて早急に手続して、周知してあげてください。そうしたら、市長の政治判断でやられたというのも、これも皆さんの意見を聞いたということになると思うんで。このままじゃとこのまま入札するということに、今準備

しとるところもあるでしょう。それが、これがあとのことは深く入るんじゃないけど、一般競争入札だけでなるんですかな。指名競争入札。そういうようなことはどっちでもええんじゃないけど。

○市長（友實武則君） はい。よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 分割後の設計金額によりますけども、1,000万円以上は一般競争入札……。

○委員長（北川勝義君） 一般競争入札。それ以下は指名じゃな。

はい、ありがとうございました。

それから、これついでにちょっと言いたいんじゃないけど、本当にこの部分払いやこうはするのかな。今までしよん、部分払い。前渡金と精算に部分払いもしよん。中間払いというのを。やっぱり何千万円以上って決まっとん。いや、極端な話ししたら、この間聞かなんだんじゃないけど、ひかりの幼稚園やこうやったら、僕は思うたん、前払いがあったら精算で終わるんか。全部する場所があるん、前払い、中間払い、精算、あるんかな。どんなん。金額で決まっとんのかな。勝手に思いつき。あるんかな、3つは。

はい、課長。

○管財課長（末本勝則君） 建設工事執行規則の中に規定がございまして、請負金額が1,500万円未満の場合は1回、1,500万円を超える場合は2回というような部分払いの規定が……。

○委員長（北川勝義君） じゃけえ、2回ということは前払いがあったら精算だけじゃろう。

○管財課長（末本勝則君） いえ、これは部分払いをその回数できるということで。

○委員長（北川勝義君） 部分払いを。

○管財課長（末本勝則君） はい。

○委員長（北川勝義君） ほんなら、前渡金はどうなの。前渡金は扱いでねえん、前払いは。

○管財課長（末本勝則君） それはまた別ですね。ほんで……。

○委員長（北川勝義君） わかりました。ほんで、それをまたコピーを下さい。

○管財課長（末本勝則君） はい。

○委員長（北川勝義君） よろしいです。はい、わかりました。

委員の皆さん、他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、委員のほうは終わりたいと思います。

それでは、執行部のほうからその他ありましたら。

○財務部長（石原 亨君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 言うんか。

○財務部長（石原 亨君） お願いします。

○委員長（北川勝義君） 石原部長。

○財務部長（石原 亨君） お願いします。

それでは、お手元に資料1枚物で、平成26年度当初予算編成方針ということで概要版をお配りさせていただいております。これについて説明を申し上げます。

まず、基本方針としまして、第1に赤磐市総合計画に掲げる「人“いきいき”まち“きらり”」の実現に向け、資料にごございます(1)から(6)までの6つの施策大綱を着実に推進するための予算とすることとしております。

そして第2に、中・長期財政見通しを念頭に、財政構造の強化と第2次行財政改革大綱の確実な推進が図れる予算とすることとしておりまして、平成28年度末で経常収支比率90%以下、一般財源ベースで、平成23年度決算と比較して6億円の財政効果を出すことを数値目標として、その達成を目指した予算とすることとしております。

次に、将来にわたって本市が持続的に発展していくため、現在直面している重点課題推進事業として、次の(1)から(4)までの事業を位置づけまして、予算の特別枠を設けることとしております。財源につきましては、国・県の補助金や経常経費削減で生み出された余剰財源を活用することといたしております。

重点課題としましては、まず(1)教育の改革につきましては、学力向上、子育て支援、不登校対策、家庭や地域社会の教育力の充実などが図れる事業を実施したいと考えております。

次に、(2)の産業振興では、農業の担い手の確保、育成、全国に誇れる特産物の産地維持と市場開拓、農業の6次産業化などが図れる事業としております。

(3)の企業誘致では、誘致基盤の整備、自然環境、交通結節点機能等の優位性のアピールなどが図れる事業としております。

(4)の市制10周年記念事業では、本市のよさを市内外にアピールするとともに、市民のさらなる交流と融和を図るための記念事業を行いたいと考えております。

これらの事業につきましては、岡山県において策定が進められております晴れの国おかやま生き生きプランに盛り込まれる事業なども参考にして、現在各担当部署、または部、課の垣根を越え、創意工夫を凝らしながら計画をしているところでございます。

予算編成の日程につきましては、10月末までに各部署から予算要求を出していただきまして、11月初旬から財政課の予算査定に入ることとしております。

重点課題推進事業につきましては、早期に取りまとめをしまして、個別に市長査定を行うことといたしております。

なお、この概略説明につきましては、他の2つの委員会にも説明をさせていただきたいと思っております。

簡単ではございますが、26年度当初予算編成の概略説明とさせていただきます。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

26年度当初予算編成方針の概要版ということで、基本方針と重点課題の推進ということになります。

委員の皆さん、何か質疑ありませんか。

ありませんか。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、澤委員。

○委員（澤 健君） まさにこの重点課題の推進っていうのは非常に重要な部分なんで、頑張ってもらいたいのというふうに思います。予算も厳しいとは思いますが、重点的につけていただけるということで、非常にありがたいと思ってますんで、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山さん。

○委員（下山哲司君） 1つお尋ねしたいんですけど、合併したときにこれと同じように、もっと大きな枠でやったんですが、そのときには教育委員関係の予算も同じように10%カットやったんですね。それが学校の状況にどういうふうに反映したかというのをお聞きしてみたんですけど、やっぱり学校運営をする中で、教育長は恐らく現場におられたんじゃないからわかっておられると思うんですが、なかなか苦しい運営であったというふうにお聞きしとんです。10%というのは、ほかの事業畑の10%と学校の10%というのは同じ10%にならないんです。その辺を考慮してやっていただきたいということだけお願いしときます。ほかのことは言いませんので。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） ほんなら、ちょっと僕から。

2点。企業誘致のところで、交通結節点機能等というのはどういう意味かな。ちょっと教えてください。

○財務部長（石原 亨君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 石原部長。

○財務部長（石原 亨君） 御存じのように、山陽インターがございます。そういうことで、交通の利便性をアピールしまして、そういうことを記載しましたパンフレット等の作成も考えているところでございます。また、これは案の段階でございますので、どういうものをつくるかというのはこれからでございますが、そういうことも検討をいたしております。

○委員長（北川勝義君） 僕は意見をちょっと言わせてもらいてえんじゃ。

企業誘致のところで、特に産業振興の6次産業とか、いろいろなことをうとうていくことはええんじゃけど、結果絵に描いた餅なると思うん。南高北低になると思うんじゃあ、今のこと

を言うたら。山陽インターだけで言いようたら。そうじゃのうて、山陽インターと、こういうことを言うたらおえんけど、美作中央自動車道のことも美岡で、美作岡山高速道路、基幹道でひっつけていくようになるわけ。それで、将来的にあと三、四年したら吉井の辺まではおりてくると思う。それから、最終的には湯郷に32年ぐらいいにかかると思うんじゃないけど、ついていくんじゃないかと思うて。そうせなんたら、山陽はようなる。

それで、土地の高えところばあを、僕は前から自分の考え方で、山陽、都市と農村の本当に潤いあるええ町じゃと思うて、住みよいあれで。そりゃあ、企業誘致とか工業団地とか、田園風景もあるけど、やっていくんじやったら、赤坂とか吉井とかへ持ってくるべきじゃねえか、何ぼか土地の安いところへ持ってくるべきじゃねえかというのもやっぱり思うとんです。

だから、ぜひ山陽インターだけじゃのうて、この美岡を通して将来的に、熊山インターできとるけど、次のときにできていくということも考えたのを、一応こういうときに企業誘致やこう入れてもらいてえ。例えば、山陽のところを買うたらお金も高えですが。吉井じやったら1反30万円か40万円で売ってくれる場合というのもある、はっきり言うて。そういうところじやったら相当な思い切った計画もできるんじゃないか。そうすりゃあ、学校の関係とか過疎とか、いろいろなことも何ぼかできるんで。

ええところを一極、僕は北川だよりに書いとんじやけど、一極主義で、東京オリンピックは反対じゃねえけど、東京ばあでなくて地方おえんのんかというのと同じで、やっぱり地方、逆に言うたら山陽はようて、吉井のほうがおえんなるんじゃないかということ、そこらはちょっとやっぱり考えていただきてえということがあるんで。そこんところで、山陽インターのところの交通結節点の機能等というんのがあるんじゃないけど、ちょっと市長、ここらは考えていただきてえ、全体を含めて、副市長。と思うとんです。

それからもう一点が、この重点課題の中にあるんじゃないけど、重点課題はこれはもうええと思うんじゃないけど、市の市制施行10周年記念等でやるんで、うちの親族の学校やこうだったら50周年、75周年したら、それで建物が建ったりいろいろやることも記念事業はあるんですけど、僕はこの中で全然うとうてねえんが、人間の生き死にうとうてねえんで。生きるというたら、市民病院じやったら、もちろん診療所になったんじゃないけど、充実を図ってもらうとか、複合施設をして図ってもらうとか。それから、もちろん吉井の佐伯北の国保診療所について充実して、早急にやってもらうとか、設計だけでもつけていってもらうとか、そうせにゃあ。

それからもう一個は、最終的にこんなことを言うたら大変生意気なことに、吉井はきのう下山さんと一緒に組合議会へ出とったんじゃないけど、焼き場、火葬場、斎場のことをどっか。これは僕らはいいいんです、吉井の場合は。それで、熊山もようおるけど、熊山もどうなるか、斎場のことに。ちょっといろいろ和気がしてくれると思うけど、いろいろあんで。この大きい4万5,000の中で斎場が自分のところへねえというのはほんまおかしい話で、特に赤坂地区の方、山陽地区の方は全部東山か西大寺に行かにゃあおえんなりよるんで、行き帰りだけでも3時間

ほどかかってするようなことじゃったら、ぜひどこかへやる。どこへやるというのをせえ言いよんじゃねえんですよ。今市長が使うことで、吉井地区にしてくれえと言うたら、今吉井は下山さん、2人今僕おるんで、山下さんおられるけど、ぜひ吉井でもするように一生懸命働きかけます、僕らも。それは、ええとかあれじゃのうて。

やっぱり赤坂や山陽の方がこっちこっち戻ってくる、熊山の方が戻るのもなかなか戻りにきいこっちゃと思うんで、僕はそういうような、生きて最後の旅立ちまでというたら大事なことで、墓地の造成もいろいろあるかも、墓地まで言うんじゃけど、そういう施設、焼き場ですな、そういうことはちょっと一つ、10周年記念に入れえとかじゃねえが、何かのときでちょっと重点施策をやっていたらええと思うんじゃけど。最終処分場のこともあるんじゃろうけど、それは徐々に進んでいきよることなので。

何かきれいごとだけを並べられて余り、何かちょっと思うたんで、そこらも一つ、重要なのは入れてもらいてえなとちょっと思うたんです。それはどんなですかね、そこら辺は。学校教育やこう余りいろいろ書けえというて、これ以上のことは書けれんと思うんじゃけど、何らかあったほうがええかなと思うて。斎場斎場と言うて、書けえ書けえと言いよったら、余り気持ちええもんじゃねえんかもしれんけど。これ僕が独断で言うんじゃねえんですけど、市長、副市長も教育長も聞かれとって、いろいろお話しさせてもろうて、話しよるときは吉井の方にも言いよる、熊山の方にも言うたらいろいろ言いよる、ごみの最終処分場よりは焼き場のほうがええわなと言うて、こういう方もおられたりするんで。

いろいろな御迷惑かけるところには御迷惑かけるんで、御迷惑かけた以上に我々が尽くすことをしていったら御理解が得られると思うんじゃ。それにやっぱりこれ27年3月7日に10周年来るんじゃったら、もうあと2年しかねえんじゃけ、1年と半をしかねえんじゃから、今時分から計画立てていきよってもおかしゅうねえんじゃねえかなとちょっと思うたんです。

これはもう何らかのことを、これ10周年入れときゃあいいんじゃけど、書けえと言よんじゃねえんじゃけど、何か考えてほしいんよ。そういう気持ちはどんなんですか。それは余り事業の小めえことには入らんとされることですか、どんなですか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） お答えします。

まず、順番にお答えします。

交通結節機能の話ですけども、山陽インターチェンジが現段階では大きな機能を持ってます。しかしながら、この赤磐市全体を眺めたときに御提案のありました美作岡山道路、あるいは熊山から和気へ抜けていく広域農道、これらのアクセス性は非常に企業にとってはアピールになります。現に私、東京、大阪へ出かけて行って、企業の役員の方に山陽インターチェンジだけではなく美作岡山道路、それから和気の広域農道、これのことをアピールさせていた

だいております。反応はすこぶるいいです、はい。ですから、このアピールの中には当然これらを織り込んで、赤磐市全域をPRしていくということを目的にやらせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 美岡は何年ぐれえに吉井の辺まで来るん、予定は。

○市長（友實武則君） 美岡は……。

○委員長（北川勝義君） 延びるばあしよんじゃけど。

○市長（友實武則君） いいですか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○市長（友實武則君） 私の知るところで申しますと……。

○委員長（北川勝義君） ざっとでよろしいです。

○市長（友實武則君） 美岡は期成会を設けて国土交通あたりへ強く働きかけをしているんですけども、今ぼんやりと見えてるものでは、熊山から瀬戸のジャンクション、これが平成30年代のできれば早い時期というふうな言い方でしか返ってきません。かなり工事は難航しております。それから、まずは佐伯北のインターチェンジまで、これを大体同時期に開通ということが今決まっているところだというふうに聞いております。その向こう、佐伯北から柵原のインター、ここまでは、まだ具体的な年限はコメントされておられません。

それから次に、重点課題の中で、医療あるいは斎場についてのことを御指摘いただきましたが、当然医療につきましては重点性の高い事業でございます。基本方針として冒頭に説明させていただきましたが、その中で健康で安心して暮らせるまちづくり、この赤磐市総合計画の掲げる将来都市像の中で、重点的な視点を持って予算編成を行うということにしております。したがって、この医療についても手を緩めることなく実施していきたいというふうに考えております。

それから、斎場につきましては、周辺の自治体等の動き、市内全域のニーズ等をしっかりと把握しながら検討をしていくというふうに考えているところでございます。今どうこうというのは、ちょっとコメントは差し控えさせていただきます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

市長、僕が有識者とか何人か、二、三十人聞いて話しよるときに、早急に最終処分場も片がつきゃあ、その周りもええげん整備すりゃあおえんというんじやのうて、御理解、これは削除してくださいよ、オフレコなんですけど、
.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

○委員（澤 健君） いいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、澤委員。

○委員（澤 健君） これちょっとお聞きしたいんですけど、企業誘致というのが出て、実は地域審議会なんかでもよく出てきますのが交流定住促進です。特に、子育て世代を誘致しようという話が出てくるわけなんです。それで、今重点課題のところには書かれてないんですが、じゃあ具体的に交流定住促進っていうと結局子育て支援とか、教育の改革のところに入ってくる部分がお金はお金使われる部分だとは思んですけど、ただ岡山市の住宅的な要素を持ってる赤磐市ですし、それから地域からもそういう要望が強いということ、それから企業もすごく大事なんですけど、大きな変換が企業っていうのはあるのに対して、人はそう急激に変更しないっていうこともあって、交流定住促進っていうのも赤磐市としては非常に重要な部分じゃないかなっていう気はするんですけど、何せ全て書いていくわけもいかなさうとは思いますが、その辺、予算上は要らないというふうに判断されたか、どういう議論があったのか、もし教えていただければ、はい。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 定住促進についてですけども、当然定住促進というのは我々地方自治体の究極の目標です。それを実現するのに、具体策としては、やはり若い人たちにアピールできるのが教育です。教育、子育ての充実。それから、働く方にとっては産業、あるいは企業の誘致、これが密接に関係してきますので、こういったものをしっかりとやらせていただいて、その結果定住促進が図られるという考えでありますので、定住促進を大きな重点課題にしているということでは決してございません。

以上です。

○委員（澤 健君） わかりました、はい。

○委員長（北川勝義君） ちょっと終わりに、これもちょっとオフレコ言うとして、.....
.....
.....
.....
.....

.....

.....要らんことですけど。これ特に逃がさんようにすりゃあ、すげえい
いんかなと思うて。まさか吉井へつくっちゃっても、吉井には来んと思うんじや。言っちゃ悪
いけど、吉井はな。吉井へ来てくれりゃあええけど。

○副委員長（松田 勲君） しっかりアピールを。

○委員長（北川勝義君） ほんなら、アピールしてください、今後。

○市長（友實武則君） 答えるの。

○委員長（北川勝義君） いや、よろしい。いや、言えりゃあ、何かあったら言ってくれても
よろしい。

他にありませんか。

松田委員。

○副委員長（松田 勲君） 当初予算に向けてということで、市長の方針が明確にこれからま
たなと思うんです。そういった中で、ここで関係すると言うたら、教育の関係がやっぱり大
事だと思います。そういった中で、澤さんもさっき言われてたこともありますし、1期目は委
員会で視察とかあったんですが、2期目からなくなって、個人で行ってるというのもあるんで
すけど、委員会としてやっぱり同じような情報を入れていかないといけないと思うんです。

私思うには、この前ちょっと市内の中学校に行ったんですけど、やはり我々も委員会として
赤磐市内の小学校、中学校を見るべきだと思う、幼稚園も含めて。時間をつくって見るべきだ
と、これから思うんです。そういった中で、先進の頑張ってる、やる気を起こしてる、僕ちょ
っと今県は、福井県かどっか忘れたんですけど、そういったところに、議員もそうですし、執

行部の方と一緒に見に行く必要があるのではないかなど。そういった意味で、できればそういった予算をつけていただけるんだったらつけていただきたいなど。要望ですけど。

やっぱりそういった情報を共有していかないと、なかなか前へ進まないんじゃないかなと思いますので。県内にいいところがあればいいんですけども、県自体がよくないんで。いいところを、遠く近くあると思うんですけど、やっぱり見に行くべきじゃないかなど。提案なんですけど、要望ですけど、どうなんでしょうか。考えていただけるんだったら。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 先進地の視察についてですけども、これは教育に限らず、さまざまな取り組み、いろんな特徴のある取り組みをされている自治体が全国にたくさんございます。それはきちんと研究して、場合によっては現地も視察してっていうのは、私の政策の中心部分です。そういった候補になるところがあれば前向きに考えていくというふうに思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

はい、山田支所長。

○熊山支所長兼赤磐市民病院事務長（山田長俊君） 熊山支所の関係の情報なんですが、お手元にお配りしている熊山英国庭園のオータムフェスタということで、今週の土曜日、日曜日に開催をしております。右のほうに書いてありますが、殿谷のドジョウ汁というような珍しいものもあります。ぜひ都合がつけば、お願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

その他についてももうないようで、以上をもちまして総務文教委員会を閉会したいと思います。

閉会に当たりまして永島教育長のほうから御挨拶をお願いしたいと思います。

○教育長（永島英夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、教育長。

○教育長（永島英夫君） 長時間にわたり慎重審議、本当にありがとうございました。

教育課題について、いろいろ御提言もたくさんいただきました。来年度とこれからの後半に向けて全力で対応してまいりたいというふうに新たな決意を持ったところであります。よろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございました。

皆様には大変御苦労さまでした。

これで本日の委員会を閉会いたしたいと思います。

御苦労さまでした。

午後 3 時19分 閉会